

一九四三年から西成ケーサツになったが四五年三月のアメリカの空襲で建物は焼け、しばらく萩之茶屋小学校に仮り住いした（留置人のことはいまわからない）。

敗戦後の一九四八年二月、焼けあとに木造建物ができ、さらに一九五八年（昭和33）三月に鉄筋三階建てとなった。その次がこんどの大増築だ。

こんどの工事は知っての通り小坂井組のシートが張ってあったけれど、地元の者はやとわれなかったと思う。工事にやとわれない代りにブタバコへほうりこんでやるというのではありがたい。

一番安いめし屋『しん平』

総合センターができる前は、新今宮駅西口から26号線のロータリーまでが、求人バスのあつまる場所だった。もちろん、労働者もそこにあつまったから、たくさんめし屋が店を出していた。

店といっても露店^{ろてん}で、客はきたない板をわたしたのに腰かければ上等で、立って食ったり、しゃがんで食ったりした。

そういう店が、総合センターがひらかれると同時に、三階へ移ってきたわけだが、一応は建物のなかに入って、みかけがきれいになったせいかなネダンを協定したりして、露店時代とはちがってきた。

万博工事からひきつづいて、釜ヶ崎の景気がまあまあの時は、それでもよかった。ちっとは高くても、こざれいな感じでめしが食えれば、誰だってその方がいい。

しかし、この一年のように景気が悪くて、失業ホケンをもらう日数だけはたらくのもむつかしくなると、きれいじゃなくても、安くハラいっぱい食える店がほしい。センター三階のめし屋でも、特に高くないのだが、できればもっと安い店がほしい。

そこでんぶらの(安)とか(末盛湯の前)、ラーメンやオカユもあるかどやとか(大新ビルの裏の通り)、やきそばの大寅(娘が二人いる方)や京屋、灘万(どっちも警察の近く)が思い出されてくる。

ここいらだと、わりに安いカネで、とにかく一応は腹がふくれるのだ。

ところで、では一番安あがりなのはどこだろうか。すでに知っている人も多いと思うが、これこそ安くて腹一杯という店を紹介したい。

その名は「しん平」。

しん平は以前、医療センター入口の南でショーバイしていた。

センターができてからあとも、三階へ行かないで、客が店の前のあちこちにドンブリ持ち歩いてた店だ。それが市街地改造のとりこわしで一時姿を消したのが、いまはプレハブでやっている。矢野酒店なんかも入っているプレハブ街に、夏の海辺なんかで使うビーチパラソルを立てているからすぐわかる。

白めしの大が七〇円(ここの中がよその大ぐらいの量)、貝汁四〇円、オカズは野菜の煮付など五〇円、イワシなんかで六〇円。相当の大男でも、ここのやきそばの大一〇〇円と白めしの大を食べば満腹するはずだ。ほかにうどん類やカス汁もある。

たとえば、白めしの大と貝汁と漬物でガマンすれば一三〇円ですむし、ニンジンの一杯入ったかやくめしの大だけなら一〇〇円もいらぬ。

この文章を書くまでに三回行ってみたが、いつも客が多くて、店の外にも椅子をおいてるところなど、

露店のフンイキもあってよかった。

ふとったオカミサンは威勢もいいが愛想もよく、安いショーバイをしているからといって客を客らしく扱わないということはない。

こういうショーバイが、とりこわしの跡にできる新店に入ったらどうなるか、問題はそこだ。へんに澄ましやの店ばかりふえている釜ヶ崎のなかに、飾りけのない、安くて腹一杯になれる店の代表としてしん平はいまのしん平のままでいてもらいたいと思う。

太子地蔵と無縁塔

釜ヶ崎の中心カスミ町交差点から南へ少し行くと、石塔が二つ、地蔵さんが大小一つずつある小さな一画に気がつく。交差点のそばに兵庫相互銀行があるが、それと同じ西側で、北どなりは新大阪商事、南へ行くとホテル・ビホロで、道の向う側はホテル・宝塚だ。

その小さな一画の向って左には「旧蹟 今宮飛田 太子地蔵尊」の石柱があって、「百度石」というのがすぐ目に入ってくる。

むかし、何かねがいごとのある人が、お百度まいりとか、お百度をふむとかいって、神仏の境内を百回廻った(往復した)時代のなごりである。

神仏の前からその百度石のところまで、百回行ったり来たりするのが、お百度まいり、またはお百度